



鷹に学ぶ人間学－鷹の一生に学ぶもの

明けましておめでとうございます！！

本年も皆様のお役に立てますよう、社員一同頑張っております。

どうぞ、よろしくお願い致します。

皆様は「初夢」を見ましたでしょうか？

縁起の良い「初夢」の代表として「一富士、二鷹、三茄子」と言われていますが、その「いわれ」は色々あるようです。元々は日本で最も古い富士講組織のあった駒込富士神社の周辺に鷹匠屋敷が沢山あったこと、駒込茄子が名物であったことから「一富士、二鷹、三茄子」と言われるようになったことが、その起源だとされています。

この中に出てくる「鷹」ですが、鷹は賢くて強い鳥であり、また長生きする鳥としてもよく知られています。鷹は長く生きるものでは70年くらい生きると言われていますが、長生きをするためにはその生涯の半ばで大きな決断を余儀なくされます。

鷹は40歳を過ぎると爪が弱くなり、またくちばしも胸につかえて獲物がうまく取れなくなってきました。更には羽も重くなり、徐々に俊敏に飛べなくなってくるのです。

ここで鷹は二つの大きな選択を迫られます。

このまま何もせずに死ぬ時期を待つのか？

それとも苦しい自分探しの旅に出て自己革新を図るのか？

自己革新の道を選んだ鷹は、まず山の頂上に行き巣を作ります。

その後、鷹はとても苦しいいくつかのことをやり始めます。

まず、くちばしを岩で叩き壊し、無くしてしまいます。

そうすると新しいくちばしが生えてくるからです。

それから生え変わったくちばしで爪を一つずつ剥ぎ取ります。

そして、新しい爪が生えてくると、今度は羽を一本ずつ抜き取っていきます。

こうして半年が過ぎると、新しい羽が生えてきて鷹は、新しい姿に生まれ変わります。

そして再び大空を高く飛び舞い、残りの生涯を力強く生きていきます。

人や企業も「鷹」と同じであり、常に過去よりは現在、現在よりは未来へと成長することを願っています。成長を望み、もっと新しい自分を発見していくためには、心の底から真剣に変化を求め、行動していく必要があるのです。

大切な人生の生きる意味に気づき、「涙」と「笑顔」で成長する自分と向き合うためには、この鷹が見せてくれたとても苦しい「選択」という勇気ある決断が必要なのかも知れません。

このお話はフィクションですが、私たちも鷹の一生には学べるものがあると思います。

